



よら
い
や
ら
い
や

公民館



WIN - WIN の関係

「WIN—WIN の関係でなければならない」と言われることがよくあります。石破総理もトランプ大統領にそう言っていました。一方が得をしても、もう一方が損をする関係では、どちらかが不満を募らせるので良好な関係になりません。不満を溜め過ぎると、いつが大爆発をする可能性があります。企業でよく使われる言葉ですが、公民館的に考えると、次のようになります。

私たち公民館職員は事業を考えるのは専門ですが、人集めに苦労します。PTA や老人クラブなど、メンバーがまとまっている団体は、人集めは比較的容易ですが、事業の計画や人材の確保は専門ではありません。そこで、2つが連携して事業をすれば、互いの得意を生かし、苦手を補うことができます。WIN—WIN の関係になります。

公民館は「集う、学ぶ、結ぶ」をキャッチフレーズに仕事していますが、特に「結ぶ」ができれば、WIN-WIN の関係になりやすいと思います。最初にちょっとだけすることが増えますが、充実した事業になります。事業プランで困ったら公民館に来て相談してください。解決の糸口が見つかるかも知れません。



とくさんの畑日記



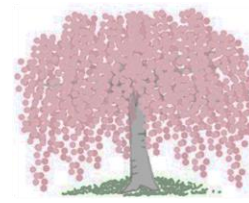
竹は厄介者か？

最近竹がすごい勢いで畑に侵入してきたので、バッサバッサと切りました。切った竹は、かさばるので処理にとっても困ります。皆さんもやっておられるでしょうが、細くてまっすぐなものは、野菜の支柱用として使います。緑の棒を買うと値段が高いので、経済的にも助かります。特に、袋で囲むためには、苗1本に棒が5本必要なので、苗を10本植えるだけで50本も必要で、買うとえらい出費になります。葉の無い竹ならエンドウの支柱として使えます。また、緑の棒は50cm以内にしないと小型破碎ごみに出せないの、捨てるのも結構大変です。竹なら最終的に腐って自然に還ります。

このように、竹は一般には「厄介者」ですが、工夫して使えば「役に立つもの」です。青谷高校が、厄介者のウニを役立たせる研究をしていましたが、このような見方でいろいろな物を利用すれば、無駄なく使えSDG's に繋がりますね。



いくらでも使い道がある竹



シリーズ 知ってましたか、青谷のこと？

寒桜は、日置谷だけではないぞ！



日置谷の寒桜は、新聞やテレビ等でよく報道されるので有名ですが、日置谷の寒桜の分身が西町の勝部川沿いに植えてあるのを知ってましたか？

それは60年ほど前、西町の田中国秋さんが、日置谷の寒桜を「取り木」して西町の勝部川土手（青谷かみじち史跡公園付近の高架下辺り）に植えました。こまめに管理されていたので、だんだんと大きくなり花が咲くようになりました。

その後、田中さんはお亡くなりになりましたが、令和3年に西町の二四会がその寒桜の保存に関わるようになり、草刈りや消毒等をやってくれました。このようにしてソメイヨシノよりも早く、2月頃にはきれいな桜の花が楽しめるようになりました。

今年は少し遅かったけれど3月になってから写真のようにきれいに咲きました。日置谷の寒桜よりも木が若いので、勢いがあって、きれいに咲いています。

なお、西町の寒桜と呼ばずに「岩本の寒桜」と呼ばれているのは、この辺りの通称が岩本だから、そう呼ぶことにしたそうです。



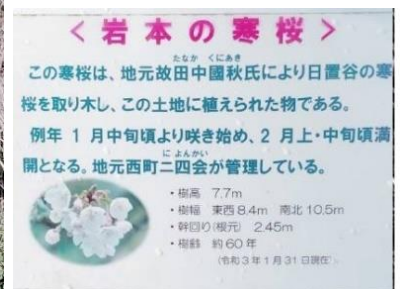
こちらから、公民館だよりがカラーで見られます

取り木とは、木の幹や枝の一部の表皮を切り取って根を生やし、新しい株元を作るとい、株を増やすための高度な方法です。

誰でもできる技術ではありません。



「岩本の寒桜」上のQRコードから、カラーでご覧ください。



1本だけに、このような看板が掛けられています

おわりに

4月12日によろこ館がリニューアルオープンしました。とっても明るい雰囲気になりました。青谷さんぽフェスや青谷音楽祭を企画・運営している梶田康広さんを中心としたグループ「あおや未来づくり協議会」が指定管理者として経営を始めたのです。青谷に因んだグッズや地元産野菜の販売、コーヒーコーナー等があります。1か月ほど後にメジャーオープンをするそうですが、今でも月曜以外は開店しています。メンバーは、「まちづくりの拠点」にしたいと言って張り切っておられます。

なお、作った野菜を持って行けば、【会費無し・場所代は売上の15%】の好条件で売ってもらえるので、どんどん持ってきてほしいということでした。